

# 平成18年度インターンシップ実施報告 —キャリア教育のメイン・プログラムを目指して—

A Report on the Internship Program in 2006,  
For the Main Program on Career Education.

富田寿人\*<sup>3</sup>, 桑原宏成\*<sup>1</sup>, 野村龍男\*<sup>2</sup>, 渡辺俊幸\*<sup>3</sup>, 桐原正之\*<sup>4</sup>  
河村都美明\*<sup>5</sup>, 大石和典\*<sup>5</sup>, 星 利光\*<sup>5</sup>, 竹下知宏\*<sup>6</sup>

Hisato TOMITA, Kousei KUWABARA, Tatsuo NOMURA, Toshiyuki WATANABE, Masayuki KIRIHARA,  
Tomiaki KAWAMURA, Kazunori OISHI, Toshimitsu HOSHI and Tomohiro TAKESHITA

**Abstract:** A practical education in cooperation with the local industries, which is referred to as the internship, has been introduced into the curricula of Shizuoka Institute of Science and Technology since 1999. This paper presents the discussion about the preparation, the organization and the results of the internship program conducted in 2006. This is SIST's seventh full-scale program following the preliminary trial in 1999. In 2006, eighty-two companies in the western part of Shizuoka Prefecture joined this plan by providing their own internship programs for over one hundred sixty students. Forty-one students participated in these programs and obtained varied experiences. The results of this program in eight years are summarized and the future prospects of this program are also presented.

## 1. はじめに

静岡理科大学のインターンシップは、平成11年度の試行に始まり、平成12年度から授業の一貫として単位を付与して実施している。本報告は、平成18年度夏期に静岡理科大学において行われたインターンシップに関して、事業計画、受入企業に対する依頼、参加学生の募集、受入企業と実習希望学生のマッチング、夏期休業期間中の実習、参加学生の成績評価、実習結果の総括など各段階における経過および結果を概観し、本事業によって得られた成果や問題点を取りまとめ、来年度以降の実施における制度の改善に資することを目的としている。

この報告では、従来どおり学生の報告書を詳細に分析し、学生がインターンシップにおいてどのような内容の実習を行い、成果として何を得たか、また、どのような感想や意見を持ったかなどを明らかにするとともに、今年度からの事前教育の充実により学生の成長と企業の評価がどのように変わったか整理しようと試みている。さらに平成11年から平成18年までの8年間のインターンシップ実施結果の総括的なまとめおよび来年度以降のインターンシップに関する展望についても述べる。

## 2. 平成18年度インターンシップの計画

本学では、平成10年度よりインターンシップの教育への導入に関する調査と検討を始め、平成11年度夏期には試行的なインターンシップ事業を実施した。平成12年度からは単位を付与する形でインターンシップの本格実施を開始した。以後、履修する学生も少しずつ増加し、企業の受け入れ態勢も徐々に整ってきている。インターンシップは、本学周辺企業の中で人材育成の手段として理解が深まり定着しつつあると共に、本学のカリキュラムの中でも重要な地位を占めつつある。就職戦線が変化するなかで8年目の実施となる平成18年度のインターンシップは、昨年までの実施の成果を基に、インターンシップ先の企業の要望に応えるため、昨年度同様に事前教育を充実させ、

より学生にインターンシップになじめるよう教育を行い、静岡県西部地域の企業の協力を得ながら実施することが計画された。さらに過去の7年間の実施の状況や結果を踏まえて、学生の意欲と積極性の一層の向上を目指し、受入企業に対して実習内容の明確化と教育的効果に対するより多くの配慮を求め、学生の希望とのマッチングを図りながらより高い教育効果を得ることをインターンシップの実施目標とした。

## 3. 受入企業への協力依頼

地域社会との密接な連携を特色とする本学の教育の中にあって、本学のインターンシップが目標としている地域産業との連携による地域に役立つ人材の育成、地域の企業や地域社会との交流の推進などの目的を達成するために、本学周辺地域の商工会議所等(袋井商工会議所、掛川商工会議所、磐田商工会議所、小笠地区商工会連絡協議会、磐周地区商工会連絡協議会)の協力を得て袋井市およびその周辺の企業に対してインターンシップ事業の協力依頼を実施した。その結果、平成18年度については昨年の約1.2倍の82社の企業(87実習テーマ)から約163名の実習生受入の意向が示された。図1の「実習生受入企業一覧表」に82事業所の一覧および実習生募集内容および実際に実習を行った学生の概略を示す。

## 4. 参加学生募集と派遣企業の決定

5月初旬、全学学生に対して、事前研修および企業研修を行い、その報告と事後研修への参加なしには単位の取得ができないことを告知し、インターンシップ希望者について、5月17日から4回の事前研修を実施した。参加学生募集と派遣企業の決定に当たっては、受入企業側からの教育上の効果を高める配慮を求めた「実習テーマ」に基づき、参加学生もこの実習内容をよく把握した上で、テーマと希望がよりマッチングするよう配慮した。

学生の実習希望者と企業の実習内容との間で調整を行ったのち、企業35社に実習生42名を派遣することとなった。実習生を派遣した企業ごとの実習期間、派遣実習生人数などの一覧を表1に示した。また、表2および表3には、実習生数の学年別および学科別の内訳および受入企業の

2007年3月5日受理

\*<sup>1</sup>機械工学科, \*<sup>2</sup>電気電子情報工学科, \*<sup>3</sup>情報システム学科, \*<sup>4</sup>物質生命科学科, \*<sup>5</sup>学務課, \*<sup>6</sup>就職課

地域別内訳を示した。参加希望の学生数は受入可能人数を大きく下回り47社に上る企業に対しては企業から募集があるにもかかわらず実習希望学生が出ないという結果となった。一方では、希望者が実習定員を上回った企業数社

については、希望者の意欲や専門分野と実習内容の関連等を考慮して選考を行って派遣学生を決定した。

表1 実習生受入企業一覧表(企業82社、テーマ87、募集人数163名、実実習学生数41名)

No.	会社名	業務内容	実習地	実習開始	日数	募集人数	実習人数
1	(株) 島山製作所	3次元CADによる工作機械カバー製作	沼津市	8/24-9/8	10日間	1	1
2	(株) 増田鉄工所	CADデータの作成	富士市	8/21-9/1	10日間	1	
3	大宮製紙(株)	機械・電気設備の保守・保全・修理計画の立案等	富士宮市	9/11-22	12日間	3	
4	松本印刷(株)	ISO9001、ISO14001、Pマークの手順で業務をして頂きます	吉田町	8/21-9/1	10日間	1	1
5	山崎工業(株)	通信機器、エアコンなどのプリント配線板の組み立て作業	静岡市	8/21-31	9日間	1	
6	矢崎化工(株)	物流機器の組立	静岡市	9/11-22	10日間	2	1
7	三明機工(株)	開発型機械メーカーで最先端の技術を学ぶ	静岡市	9/11-22	10日間	3	1
8	鈴与(株)	物流業務と情報システムの現場実習	静岡市	8/21-25	5日間	1	1
9	(株) マルタカテクノ	健康機の各種性能の確認	藤枝市	8/4-31	10日間	2	1
10	大学産業(株)	現状では与えられた業務を楽しく行う	浜松市	8/4-31	10日間	1	1
11	テイボー(株)	マーケティングペンの製造又は検査	浜松市	9/11-15	5日間	2	1
12	(株) 遠州日石	接客を通じて販売力	浜松市		随時	10	
13	富士ゼロックス静岡(株) 浜松支店	DTPソフトを使って、様々なオンデマンドプリンターで出力	浜松市	9/11-22	9日間	2	1
14	(株) 遠鉄百貨店	お客様と接する機会を多くもち、笑顔で会話をしましょう	浜松市		随時	5	
15	(株) 小楠金属工業所	各種工作機械を使い精密部品を切削加工し測定する	浜松市	8/28-9/8	10日間	2	
16	ソフトブレン工業(株)	造づくり体験と製造原価の仕組みを知る 工程改善	浜松市	8/21-9/1	10日間	1	
17	ユニクラフトナグラ(株)	ものづくり体験	湖西市	9/11-22	10日間	1	
18	(株) ユニバンス	四輪駆動車の伝達装置に関する技術計算	湖西市	9/11-22	10日間	2	1
19	(株) 白木機械設計	モーターを用いた制御電子回路設計、シーケンス制御 2次元3次元CADを用いた部品図製図業務 組込みマイコンボードによる制御プログラム開発	浜松市	8/7-31	14日間	2	
20	(株) 浅沼技研	3次元測定機の操作法および図面読解	浜松市	8/21-31	9日間	1	1
21	ショーダテクトロン(株)	機械開発から出荷まで、作業を確認することで物作りを理解する	浜松市	9/11-22	10日間	1	
22	FDK(株) 湖西工場	設計業務について	浜松市	8/21-9/20	22日間	2	
23	榎本工業(株)	工作機械の組立を通して、実際の機械の設計と制御手法を学ぶ	浜松市	8/7-31	9日間	2	1
24	(株) ヒューモラボラトリー 浜松工場	電子部品、自動測定の実験	浜松市	9/4-15	10日間	1	1
25	(株) テクニカルサポート	営業に同行し、客先や社内の各部門を通じて、業務の全体像を把握	浜松市	8/7-9/21	14日間	2	
26	(株) エヌエスティー	制御ユニットの組立、配線、検査、調整	浜松市	8/21-9/1	10日間	1	1
27	浜二ペイント(株)	木工塗装の体験と塗料の性能評価	浜松市	9/11-9/22	10日間	1	
28	(株) ジャパン・ミヤキ	削り物に合わせた工作機械、刃物、回転数等の違いの把握	浜松市	8/21-9/1	10日間	2	
29	A. I. S(株)	相談の上対応	浜松市		随時		
30	浜松ケーブルテレビ株式会社	礼儀節度を重んじる	浜松市	9/4-15	10日間	1	1
31	不二工機製造(株)	金型、専用機、一品生産の為、生産システムを理解してもらいます	浜松市	8/24-30	5日間	1	
32	(株) アイゼン	エンジン部品(コンロッド)の加工設備と方法及び治具の機構について	浜松市	9/11-25	11日間	2	
33	天方産業(株)	半導体製品の提案プロセス	浜松市	9/11-22	10日間	2	
34	東海精工(株)	相談の上対応	浜松市	8/7-11	5日間	2	
35	やまと興業(株)	金属パイプ加工の基礎について学習及び現場での実習	浜松市	8/28-9/2	5日間	2	1
36	(株) コーリツ	製造会社の仕事の流れと製造工程を体験する	浜松市	8/23-9/25	10日間	1	
37	(株) ブローチ研削工業所	簡単な作業の補助	浜松市		未定	2	

38	(株)ZOA	小売業の流れについて	浜松市	8/4-17	10日間	3	
		小売業の流れ、仕入、売場作成、販売	浜松市	8/4-31	26日間	1	
		商業施設における物流及び商品管理システムについて	掛川市	8/4-17	14日間	1	
39	(株)榛葉鉄工所	オートバイマフラーの製造工程	掛川市	8/7-11	5日間	2	1
40	さわやか(株)	仕事を通じて、社会人としてのルール、マナーを身につける	掛川市	8/7-25	15日間	2	
41	(株)藤田鉄工所	改善グループにてMMチャートの実践、品証にてゲージ管理の実践	掛川市	8/22-9/16	5日間	3	
42	(株)電算インフォメーション 掛川事業所	ソフト評価の重要性を実際に評価業務を行いながら修得する	掛川市	8/21-9/22	20日間	2	
43	創輝H・S(株)	ショックアブソーバーの試作組立、ベンチテスト	掛川市	9/11-22	10日間	1	
44	袋井市役所	袋井市に住む人のサポート業務	袋井市	8/7-9/1	10日間		5
45	(株)赤堀技研	NC(数値制御)工作機械の操作による部品製造	袋井市	8/7-26	12日間	2	
46	(株)相良プラスチック工業所	プラスチック成形	袋井市	8/28-9/15	10日間	3	
47	中遠電子工業(株)	電子部品変圧器の製造工程における、検査業務	袋井市	8/21-29	7日間	1	1
48	大塚ベバレジ(株)袋井工場	省エネルギー検討	袋井市	9/11-15	5日間	1	1
49	(株)クリタス 袋井事業所	し尿処理施設フローの習得と運転管理の基本事項	袋井市	9/4-13	10日間	2	2
50	静岡県サッカー協会グループ エコパハウス	小笠山総合運動公園の多角的活用	袋井市	8/4-9/25	10日間	5	1
51	化工機プラント環境エンジニア(株)袋井事業所	汚水が浄化されるシステムを理解する	袋井市	8/4-25	15日間	2	1
52	(社福)明和会 袋井学園	知的障害者との交流を通して、福祉への理解を深める	袋井市	8/28-9/25	10日間	2	
53	(社福)明和会 知的障害者更正施設 あきは寮	心の触れ合い大切に、一緒に汗をかこう!	袋井市	9/11-29	14日間	4	
54	(社福)明和会 ワークス つばさ	明るく、元気な障害者の人達との出会い、ふれあいを知ろう。	袋井市	9/11-29	10日間	1	
55	袋井市月見の里 学遊館	IT関連の新しいワークショップで新しい企画をし、開催する。	袋井市	9/8-22	2週間話し合いによる	2	
56	(株)アクティ森	サービスから、人格形成や勤労観、職業意識や責任感の育成	森町	8/8-21	14日間	4	
57	(株)モリック	エンジン電装部品の試作、及び、評価	森町	9/11-22	11日間	3	2
58	ミネベア(株) 浜松工場	材料元素分析	袋井市	8/18-31	11日間	1	1
59	静岡製機(株)	機械製品の組立作業、又は、技術開発における測定作業等	袋井市	8/7-11	5日間	2	1
60	(株)アイテック	成形、加工工程から出荷までの一連の流れ	磐田市	9/11-22	10日間	2	
61	(株)杉山製作所	半自動機を全自動化する際の考察	御前崎市	8/17-25	8日間	2	1
62	(株)木村铸造所	鋳物製品の加工・利用から、物づくりの現場を知る	御前崎市	9/11-22	10日間	1	
63	NSKワーナー(株)	製品の試験・結果まとめ(仮)	袋井市	9/11-22	10日間	1	1
64	ポーラ化成工業(株)袋井工場	化粧品の品質管理	袋井市	9/11-15	5日間	1	1
65	(株)丸真電子	電子制御機器の試作品実験データ取り、検査	磐田市	9/21-31	9日間	1	1
66	磐田信用金庫	信用金庫業務研修	磐田市	8/7-9	3日間	3	1
67	日星電気(株)	技術補助、生産補助、電気・電子部品の製造業務	磐田市	8/4-9/25	10日間	2	
68	浜松光電(株)	電子部品の製造及び検査	磐田市	8/4-22	20日間	2	2
69	三恵(株)	物流について学ぶ	磐田市	7/20-8/10	22日間	2	
70	(株)エフ・シー・シー 竜洋工場	クラッチディスク摩擦材用ペーパーの抄造 補助業務	磐田市	8/21-25	5日間	2	1
71	ナンヨー(株)	鋳鉄の材料試験業務	磐田市	9/11-22	10日間	2	1
72	(株)小出製作所	MC、NC、フライス盤、ワイヤーカットなどのプログラム及び操作業務	磐田市	9/11-19	9日間	2	1
73	西島(株)	機械製造に関わるテーマ	豊橋市	8/4-9/25	10日間	2	
74	(株)ピコ・ナレッジ	システム開発のプロセスと実務	名古屋市	8/21-9/1	10日間	2	
75	羽立工業(株)	プラスチック製品の生産業務	湖西市	8/21-9/22	希望	2	
76	第一工業(株)	自動車部品の性能試験	磐田市	9/4-13	8日間	1	
77	大和鍛工(株)	鍛造品製造工程における品質保証と検査 測定の実習	掛川市	9/21-30	7日間	1	

78	新日本特機(株)	設計から試験機の完成迄	浜松市	8/21-9/1	14日間	1	
79	エズカ工業(株)	PC及びCADを使い産業機械の部品や詳細図を設計する。	磐田市	8/25-9/22	5日間	1	
80	(株)セイユー富士芝川工場	工場内ライン作業と品質管理業務	芝川町	未定		2	
81	矢崎総業(株)	電気電子機器製造販売	裾野市	8/4-9/25	10日間	1	
82	生活協同組合コープしずおか	体験・話し合いから「自分にとっての働くことの意義や意味」を考える	静岡市	未定		3	

表2 実習学生の学年・学科別人数

学科	一年	二年	三年	四年	計
機械		1	11		12
電子		1	10		11
情報			8	1	9
物質	1	2	6		9
大学院	1				1
計	2	4	35	1	42

1名で2社に実習した学生がいる(実人数41名)

表3 実習企業地域別内訳

市町名	人数	市町名	人数
沼津市	1	吉田町	1
静岡市	3	森町	1
藤枝市	1	磐田市	6
御前崎市	1	浜松市	9
掛川市	1	湖西市	1
袋井市	10		

表4 インターンシップ 事前研修会 出席者状況

学科	第1回	第2回	第3回	第4回	報告会	第5回	計
機械	14	12	12	10	12	9	69
電子	23	18	21	9	8	11	90
情報	14	13	11	9	8	8	63
物質	26	26	18	9	8	7	94
大学院	1	1	1	0	1	1	5
合計	78	70	63	37	37	36	321

表5 インターンシップ実習テーマの分野別分類

<p><b>[機械設計・開発などの分野]</b>            機械設計. CAD による作図. 受注生産機の機構・開発設計. 試作機の性能確認. 自動車部品のモーター駆動化をにらんだ先行技術開発. 図面検証→試作→評価. 製品開発の補助作業. 鍛造. 金型の設計・製作現場を学ぶ. 開発・設計現場において開発業務を体験. 3次元 CAD を使ったパーツモデリング. エレベータ部品の設計. 開発品の試作. 製作. 評価. 健康関連機器の開発補助.</p> <p><b>[生産・機械加工・試作・もの作りなどの分野]</b>            機械加工実習. クラッチディスク摩擦材の抄造作業. 自動車・オートバイ・農業機械の精密部品を切削加工. マシニングセンタによる製作. ワイヤ放電加工. オートバイマフラーの製造工程. 塑性加工(鍛造, 熱処理作業工程). 非鉄金属の各種加工. NC 加工汎用機の体験. 金型設計→加工→仕上→射出成形の体験. パイプ曲げ, ロウ付け, 溶接, 出荷等. NC 旋盤, マシニングセンタ, ホブ盤. 細穴放電加工. 洗濯機の部品製造から組立作業まで.</p> <p><b>[検査・測定・実験などの分野]</b>            完成品検査. 画像処理装置. 加工条件設定のための測定分析. 試作機の性能確認. 2輪車用ショックアブソーバのテスト. エレベータ関連部品の品質調査. ショックアブソーバの試作組立, ベンチテスト. 自動車部品の性能試験. 品質管理及び試験活動のサポート. フッ素樹脂製チューブ・ウレタン製チューブの押し出し条件確立. 位置決め XY テーブルの評価実験. 自動車部品の振動特性測定. CAE による振動解析. 金属疲労分析. プレス製品の性能評価. 実験データの測定と理論解との比較.</p>
--

<p><b>[電気・電子関係の開発・実験などの分野]</b>            工場内各種機器の電力集計及び分析. 工場内照明器具, 空調機器, 動力機器の使用電力集計及び分析. 電子制御機器の試作品実験データ収集. 超音波応用機器の開発設計. AutoCAD による電気回路の設計. 高速精密送り装置のモーター及びドライバーの特性解析. 微細認識用工学系における照明の解析. 電磁部品の評価検査. 各種回路の計測制御. レーザー干渉計を使用した変位測定. 太陽光発電システムの取付実習.</p> <p><b>[物質科学関係の開発・実験などの分野]</b>            微生物応用による開発試験. 汚水浄化システムの理解. 水処理施設フローの習得と運転管理. 電子顕微鏡取扱業務. 環境計量における, 試料の前処理. 有機合成による香料分質の合成・精製. 化粧品品質管理. FeNi 合金の磁気特性調査. し尿の各処理工程のシステム管理と作業実習. 銅合金の透過電顕による組織観察. 緑茶カテキンの分析・整理. 水質分析.</p> <p><b>[情報関係などの分野]</b>            図書館業務全般. エレベータ電気手配自動化ソフト作成. 物流業務と情報システムの現場実習. パソコンデータ入力. IT システム管理, ユーザーサポート等. PC 機器類の研究指導. インターネットを使った情報収集. ワード・エクセルなどの応用. 市内の観光スポットの写真撮影や資料収集・ホームページの作成. 3次元 CAD ソフトと遠隔ネットワークシステムの習得. データ収集プログラムの作成. データベースソフトの作成. Linux のリアルタイム制御. 発信用ソフトのデモ用サンプル制作.</p> <p><b>[企業経営・管理などの分野]</b>            接客サービス. 本社として各支店との事務連絡業務. 接客</p>
--

販売・放送・番組制作における技術部門の仕事。現場見学、実習（配管、リフォーム、不動産）。PR・広報等。社会人になるための基礎教育の体験。ベンチャー企業の経営現場。作業工程管理。新製品のマーケティング。

**【福祉活動・団体活動などの分野】**

消火・救急訓練、消防機材点検等。お札や御守の授与、おみくじや護摩木のお授け補助、参拝者観光者に対するサービス。施設内外の整備（窓拭き、草刈り、押入れ掃除等）、重度障害児（者）の介助、散歩・制作活動等の介助。市民参加の地域福祉活動。

**5. インターンシップの実施状況**

先にも述べたように、5月17日から4回にわたり事前研修会を開催し、基礎的必要事項や心構えなどを説明した。第1回事前研修会ではインターンシップの概要とインターンシップに参加する上での考え方や心構え、履修等について説明を行った。第2回事前研修は「働くことの意味、大学で学ぶことの意味」について講義を行い、インターンシップそして社会人となるための心構えを学習してもらった。第3回目は昨年度の実習生受入企業である（株）エヌ・ビー中根屋の増田氏、静岡製機（株）の鈴木氏にお願いし、インターンシップに参加する上での考え方や心構えと大学としての企業研修の意義について話していただいた。また、本学就職課から、業界や企業についての基礎知識について説明を行った。第4回目は必要最小限の注意事項の説明に限定して行ったが、「意欲と積極性を高める」ことに関してできるだけの注意を喚起した。

一方で、本学と実習生受入企業等との間で双方の義務や責任を明らかにすると共に、万一の場合に備えるため実習生の受入に関して大学および企業等の双方が遵守すべき事項を列挙した覚え書きを作成し、双方が署名捺印の上、交換を行った。

また、参加学生と本学の教員との連絡を密にするため、参加申込書を提出する際、助言教員の承認をうけることとした。

インターンシップ実習は、8月4日から9月26日までの本学の夏期休業期間中に、各企業等において滞り無く終了することができた。各事業所における実習期間中には、インターンシップに対する協力の御礼と学生の実習状況の視察を目的として、インターンシップ実習生を受け入れていただいた企業等に担当教員が出向いて、実習の受入担当者と面談を行った。

最近の3年間に各受入企業等において実施したインターンシップの実習テーマについて分野別に分類したものを表5に示した。本学でインターンシップを実施した8年間の受入企業数、実際に実習を実施した企業の数、募集学生数、参加学生数、単位取得学生数の変化を図1に示した。実習を実施した企業数および参加学生数は過去6年間増加を続けていたが、本年度については参加学生数が昨年度の約半数と大幅に減少する結果となった。参加学生の学科別内訳を図2に示した。この減少の理由については、最後に言及したい。参加学生の8年間の累計は500名以上となった。

**6. 事前教育の参加**

昨年度から、従来課題となっていた事前教育をより充実させる目的から事前研修を4回にした（以前は2回）。これにより、学生の負担度は高いものになったが、明確な目的意識を持った学生が実習に参加することになり、その効果は明らかであった。本年度も事前研修を4回行い、その参加者数を表4に示した。

さらに本年度は、各事前研修をビデオに収録し、これを本学図書館のDVDライブラリーに登録した。これによって、事前研修当日に実験実習やその他の用事によって参加できなかった学生も、後日DVDを見て、内容に関するレポートを提出することによって、事前研修を受けたと認定されるようにした。

その結果、第1回的事前研修参加者78名のうち42名が企業実習を行うこととなった。

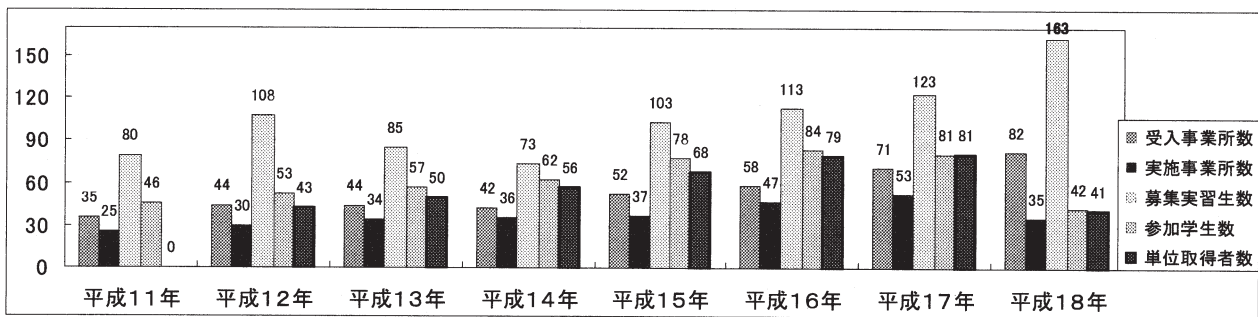


図1 受入企業等の数および参加学生数の8年間の変化

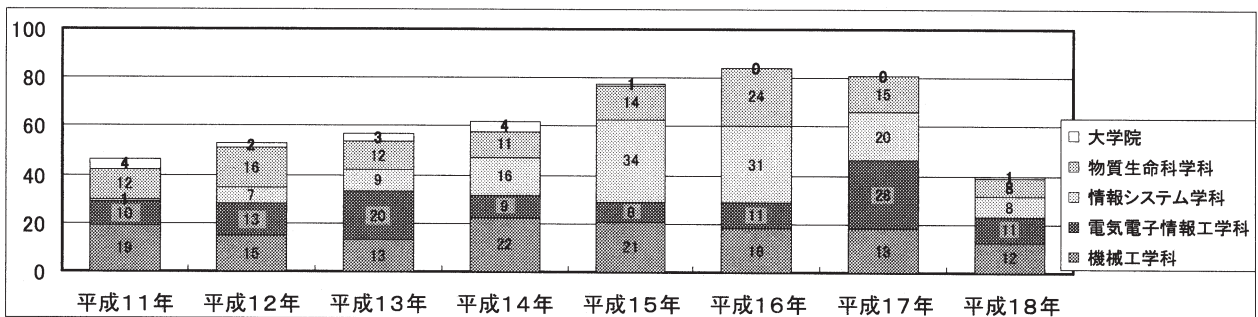


図2 参加学生数の学科別内訳(8年間の変化)

## 7. インターンシップで学生は何を得たか？

以下では、実習によって得られた成果、実習を行った感想、実習に関する反省、などについて学生の報告書からまとめた結果を述べる。

### 7.1 実習内容

学生が各受入企業等において行った実習テーマについては前記一覧表中に記載されたとおりであるが、実習テーマのみでは実習の内容はわかりにくいので、学生が実際に行った業務内容の詳細について事項別にまとめ、その内よく行われていた主要な業務内容を図3に示した。これによれば、「実験、測定、試験、分析」および「企業・業務説明、社内見学」の項目がそれぞれ14%と高く、次いで「製作、組立、加工」が11.4%と高い割合で行われていたことがわかる。

### 7.2 実習によって得られた成果

学生が実習終了後に提出した報告書中の「実習の成果」の項に述べられた内容を分類・集計し、まとめたものが図4-1、4-2である。図4-1は、特に実習の技術的な内容に関する成果の詳細について事項別にまとめた結果を示している。この中では「施設・機械・装置・器具の取り扱い方法」の学習ができたと答えた学生が18.5%と最多となった。次に「作業効率の重要性を認識」と答えた学生が13.6%となった。

実習によって得られた成果のうち、「企業・職場・仕事に関する認識」に関するものを図4-2に示した。つまり、成果のうち技術的内容に関するもの以外の事項を分類・集計したものである。これを見ると、「企業の現場を見ることができた」と答えた学生が15.9%、「企業や職場の雰囲気

がわかった」、「慎重かつ正確な作業の重要性」をあげた学生が9.3%と多かった。その他、学生が得た「企業・職場・仕事に関する認識」に属する成果は非常に多岐にわたり、このインターンシップで学生が得た成果が幅広いものであったことが明らかとなった。

### 7.3 実習に関する感想

学生の報告書で、「実習に関する感想」として記載された事項を整理し、項目ごとにまとめたものが図5-1、5-2である。図5-1は実習の内容に関する感想を、図5-2は実習を行った企業や職場、仕事などの感想について、主要な意見を示した。実習内容に関する感想としては「貴重な体験ができ、非常に勉強になった」が20%、次いで「楽しみながら仕事ができ」、「見聞きするもの全てが新しかった」などの回答が多かった。企業・職場・仕事に関する感想としては「社員の人からとても親切にもらった」、「良い環境で実習することができた」などの感想が多く、受入事業所の方々のご配慮によって、すばらしい研修が行われたことがうかがえる。

### 7.4 実習に関する反省

学生の報告書で、実習に関する反省として記載された事項を整理したものが図6である。その中では「何事も積極的に行動するべきだった」および「基礎的、応用的な知識が足りなかった」が最多の回答となっている。学生が研修を通して、自分を振り返り、どんな行動や勉強をすべきかを気づくことができたものとする。

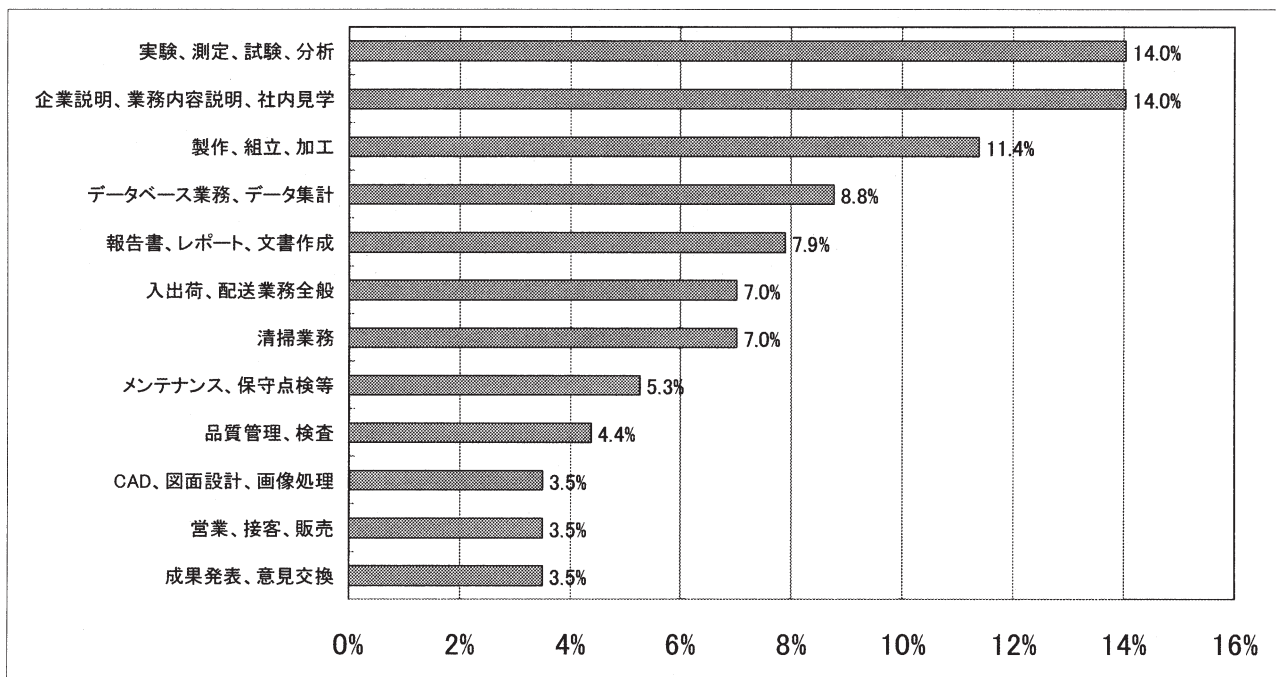


図3 実習内容の詳細

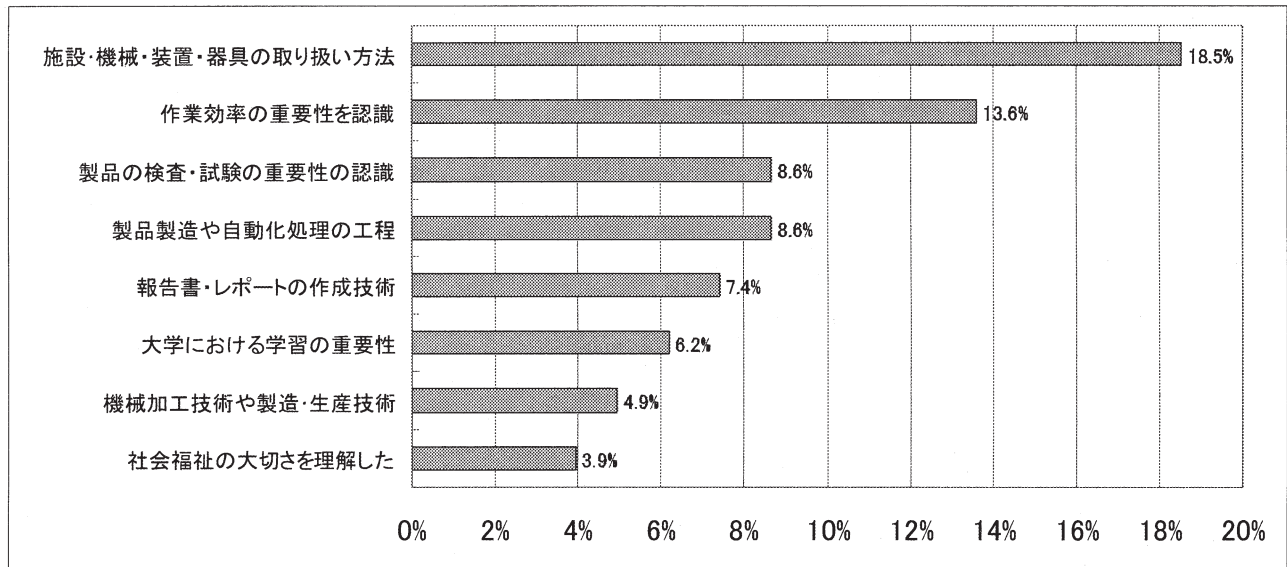


図4-1 実習によって得られた成果(技術的な学習・習得・経験など)

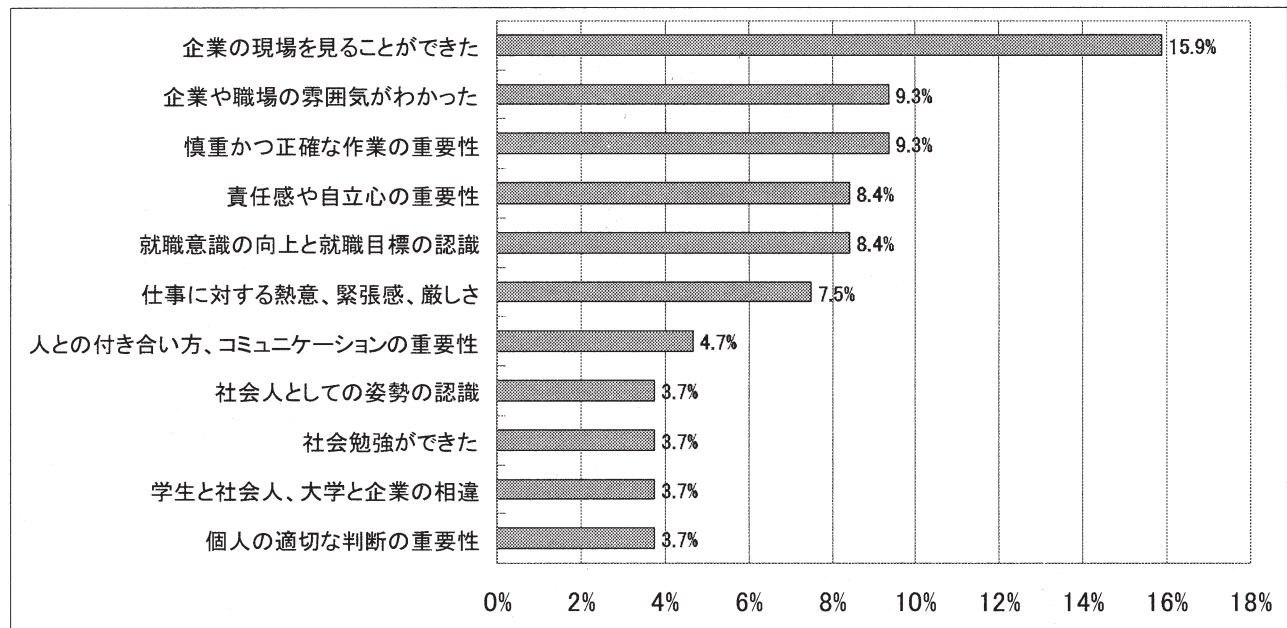


図4-2 実習によって得られた成果(企業、職場、仕事に関する認識など)

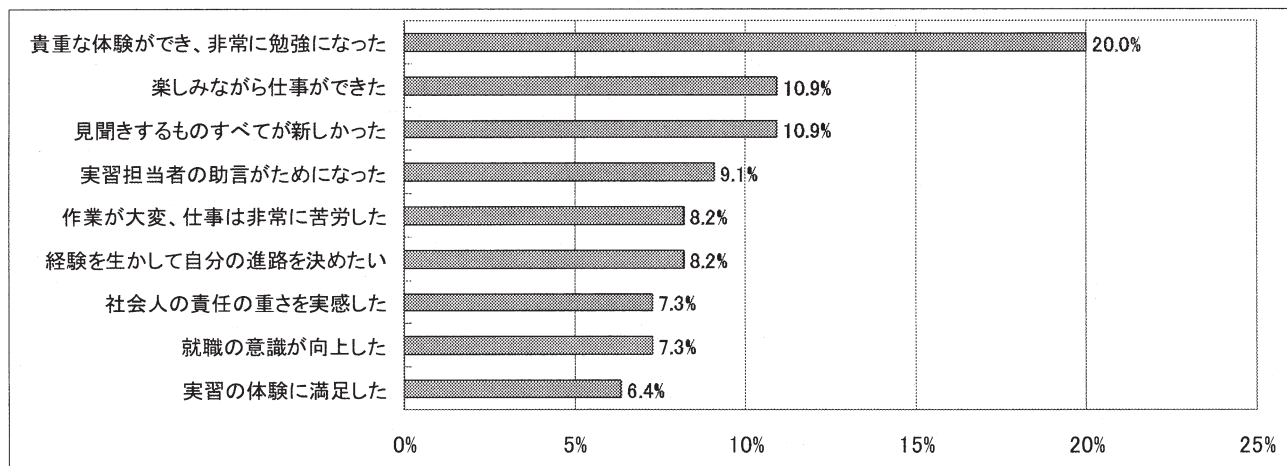


図5-1 実習に関する感想(実習内容について)

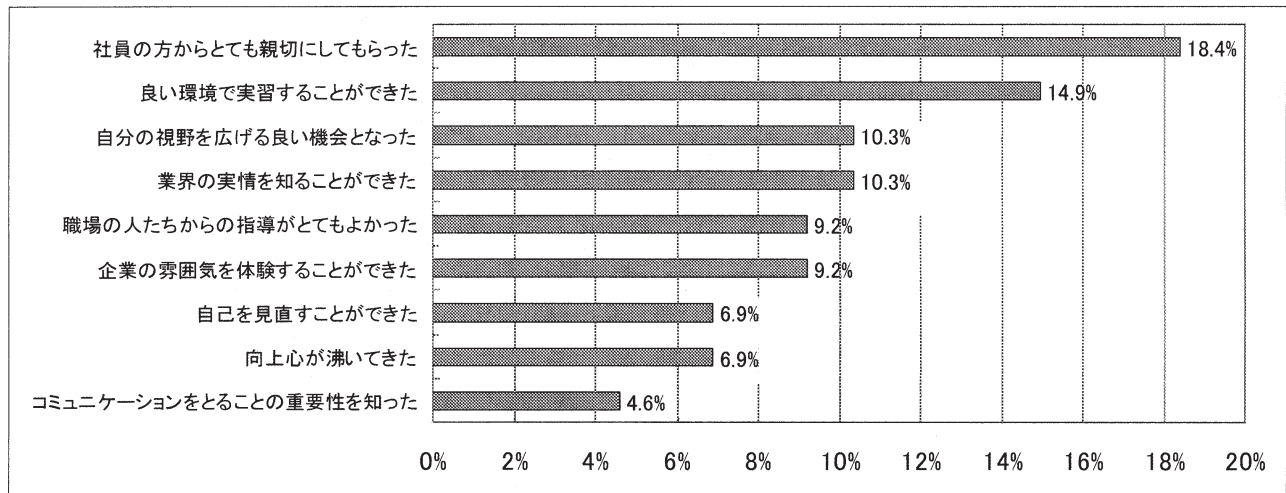


図5-2 実習に関する感想（企業・職場・仕事について）

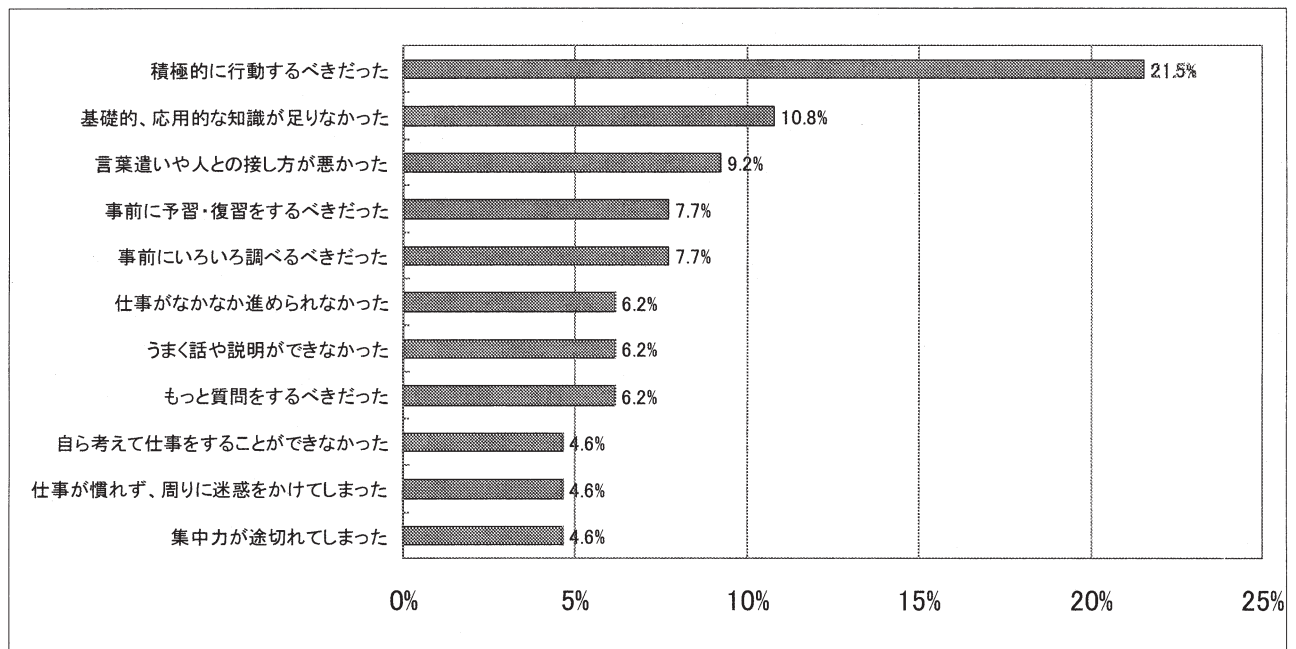


図6 実習に関する反省

## 8. インターンシップ実施の結果に関する検討

インターンシップの終了後に、実施状況をできるだけ詳しく調査して問題点を把握するために、受入企業等と参加学生の双方を対象としたアンケート調査を実施した。その結果について以下に述べる。

### 8.1 受入企業による実習生の評価

単位認定のため学生の実習状況の評価を行う必要がある。そのため企業等の実習担当者に依頼して個々の実習生の実習状況に関する評価を求めた。評価の内容は、10個の評価項目について5段階評価を求めたものである。その結果（回答数42）をまとめたものが表6である。「勤務状況」では平均値が4.5と昨年より0.3ポイント下がる結果となった。しかし、「責任感」や「全体評価」では昨年度を0.2ポイント上回る結果となった。その他の項目については昨年度とほぼ同じであった。

表7には個人別の所見として述べられた主要なものを

示している。おおむね「積極的な行動」が評価され、全般的には学生の实習状況は良好であったと思われる。しかし、一方でコミュニケーション不足や消極性なども指摘された学生もいた。

### 8.2 受入企業による満足度評価

受入企業等に対し、今回のインターンシップに関するアンケート調査の回答を求め、受入企業中35社の回答を得た。これらの結果を図7に示した。「実習生の実習状況は満足すべきものであったか」との問いに対しては約80%が満足またはほぼ満足との回答があった。「実習生の態度や状況について」適切あるいはほぼ適切との回答は90%以上であった。また、インターンシップ全般に関しての評価は、90%以上の回答が適切あるいはほぼ適切という結果となった。これらの結果から平成18年度のインターンシップに関しておおむね良好な評価が得られたと考える。



8.3 実習生による満足度評価

実習の結果に関する参加学生向けアンケート調査は、企業の受入態勢や実習内容の適否を問う内容を含んでいる。その結果をまとめたものが図8-1および8-2に示されている。実習内容、実習環境、成果などについて、ほとんどの学生が満足またはほぼ満足しているという回答が得られた。また、図9は実習生に対する給与や手当等の支給の状況をまとめたものである。

8.4 実習先訪問担当教員の報告

単位認定のために、学生の実習状況を調査し、大学として評価をする必要がある。本年も各企業へ担当教員が訪問し、企業側の受け入れ部門長または担当者と面談、さらに実習生本人とも面談する機会を得て、インターンシップの成果を評価した。訪問担当教員の実習生に対する感想をまとめたものが図10である。昨年同様、「真面目・一生懸命」に取り組んでいるといった感想が目立っている。次に「意欲的、積極的」といった感想が多かった。今年度の学生の特徴としては、「真面目に積極的な態度で取り組んでいた」と評価をすることができると考える。

教員からの事業所への評価は、「良く指導していただいた」との評価が高かった。特に実習生のために企業側がテーマを決め、受け入れに責任を持って取り組んでいることに満足している様子がうかがえる。これからも企業側の受

け入れを促進するためには、大学として信頼に沿う形で臨むべきと考える。

具体的評価の例

<真面目な仕事振りで好感をもたれた>

- ・毎日の作業報告がしっかり書けている
- ・会社で用意したプログラムで実習を行うようになっている
- ・外回りの仕事の実習であったが、最終日は会社の仕組みについての講義があった
- ・他大学の学生と一緒にあり緊張感があった（静岡文芸大、静岡産業大）
- ・マンツーマンでの指導が良かった
- ・人との接し方に進歩が見られた

<学生の積極性不足、受け入れ企業側へ感じた事項など>

- ・通勤に負担がかかり、身体が汚れる作業があり悩みの種であった
- ・実社会の仕事といった点では不十分な実習内容

表6 インターンシップ実習生に対する個人別評価（5段階評価、回答数 42）

評価項目	評 点					平均値
	大変良い	やや良い	普通	やや劣る	劣る	
	5	4	3	2	1	
1. 勤務状況(欠勤、遅刻、早退、などの状況)はいかがでしたか？	30	5	6	1	0	4.5
	72%	12%	14%	2%	0%	
2. 勤務態度(言葉遣い、挨拶、返事など)はいかがでしたか？	22	9	7	4	0	4.2
	52%	21%	17%	10%	0%	
3. 実習内容はよく理解しましたか？	12	20	10	0	0	4
	28%	48%	24%	0%	0%	
4. 仕事において、よく実行し、行動し、努力しましたか？	19	13	9	0	0	4.2
	46%	32%	22%	0%	0%	
5. 仕事は正確でよい結果が出ましたか？	15	15	11	0	0	4.1
	37%	37%	26%	0%	0%	
6. 創意工夫の姿勢は見られましたか？	13	8	20	0	0	3.8
	32%	19%	49%	0%	0%	
7. 仕事に対する積極性はいかがでしたか？	15	12	10	4	0	3.9
	37%	29%	24%	10%	0%	
8. 責任感をもっていましたか？	17	10	14	0	0	4.1
	42%	24%	34%	0%	0%	
9. 協調性はいかがでしたか？	15	9	15	3	0	3.9
	36%	21%	36%	7%	0%	
10. 全体評価	17	18	7	0	0	4.2
	40%	43%	17%	0%	0%	

表7 インターンシップ実習生に対する個人別評価の所見

<p>&lt;積極的な行動が評価された&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10日間誠実に勤務してくれ、指導者からの評価も高かった。</li> <li>・大変まじめに、また積極的に仕事に取り組んで頂き良い結果を残せた。</li> <li>・朝早くから出社し、昼休み等にも貸与した参考資料を入念に読み、研修している姿が印象的。</li> </ul>
---

- ・作業手順の理解から作業完了まで丁寧で迅速な仕事ができ、作業に工夫を加えること、発言ができる。
- ・明るく積極性があり、好青年という印象。向上心が強いと感じた。
- ・一つ一つの事柄を理解しようとする努力が見られた。製品に対する好奇心があることに大変関心した。
- ・積極性があり、疑問が生じたらすぐ質問もし、前向きな姿勢を感じた。
- ・勤務状況は大変良い。会社の仕組み、作業の意味を理解吸収しようと努力していた。責任感と協調性も高く、良い印象をもった。
- ・大変真面目に取り組んでくれて感謝。
- ・挨拶もしっかりしており、短期間だったが従業員とも打ち解けていた。
- ・清潔感があり好印象をもった。積極性があり、取り組む姿勢がよい。
- ・仕事の内容、役割は市の職員と同レベルで課したが、これによく応えてくれた。人当たりも良く市民サービスの実態を体感してくれたと思う。
- ・積極的に業務を遂行していた。不慣れな作業にも熱心に取り組んでいた。
- ・勤務態度は前向きで明るい。現場のきつい仕事にもよく対応した。
- ・実務担当者の指示、説明に耳を傾け、積極的に取り組んだ。現場のきつい仕事にもよく対応した。
- ・ソフト開発、パターン設計等本人が今までに経験したことのない分野に積極的に取り組んでくれた。

**<一定の評価は受けたものの、問題点の指摘があった>**

- ・真面目で言われた事は理解して仕事ができ、もう少し、周りの人と積極的に話ができれば一層良かった。
- ・言葉遣いは丁寧で、まじめに色々吸収しようとする姿勢が見受けられた。自分の意見を発言、表現する力を身につけるとよい。
- ・言葉は少ないが好青年でまじめに仕事をした。今後は人と接する機会をもっと楽しんで欲しい。
- ・まじめで、挨拶もよくできた。最初は硬かったが終わり頃はうちとけてきた。もっと自分を出して自然にぶっつかっっていけば早く仲間に入れると思う。
- ・もう少しコミュニケーションがとれるとよかった。
- ・初対面の時より表情も明るくなった。この数日間が今後何かの役に立ってくれればと思う。
- ・素直で良い。指導したことはきちんと守った。おとなしい性格のため積極性に欠けると感じた。
- ・実習は真面目に取り組んでいた。他の研修生と比べ協調性や積極性が欠けている印象を受けた。
- ・真面目な性格だ。もう少し元気を出すこと。片付け等は指示をしなくても毎日しっかりできた。
- ・話を通して知識レベルは高い印象を受けた。仕事はそつなく実行。もう少し積極性が出るとうい。挨拶、返事はするが声が小さく元気がない印象を受けた。
- ・仕事に関し分からないところは素直に質問しながら実行した。もう少し積極性が出てくるとよい。挨拶、返事は声が小さく元気がない印象
- ・与えられた実習内容には責任感をもって臨んでいた。速さと正確さのバランスやデータまでには至らない自分で記したメモ等を大切にすることが若干望まれる。
- ・1日遅刻があったが、10日間の勤務態度は良く、仕事において良く実行し行動した。成績評価も短期間で全て良い評価になると思う。

**<その他>**

- ・1週間の実習だったが、取り組み姿勢、成果に不足はなかった。
- ・体力的に不安があり、空調のある部屋で作業を担当してもらった。今後の体力、耐久性の強化を勧める。
- ・溶接職場での実習であったため暑さに負けたようだ。塑性加工、溶接加工の工程中の変化に興味をもったようだ。

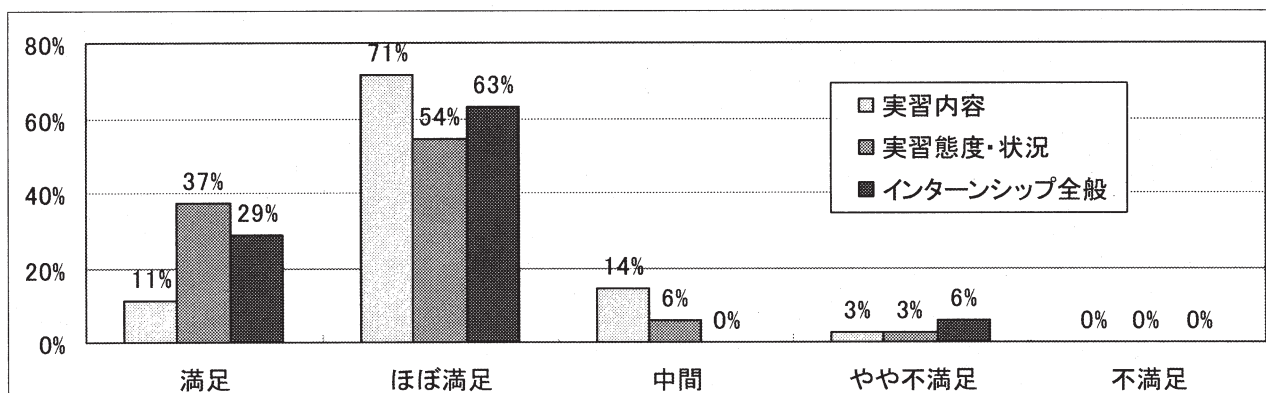


図7 インターンシップの結果に関するアンケート<受入企業担当者>

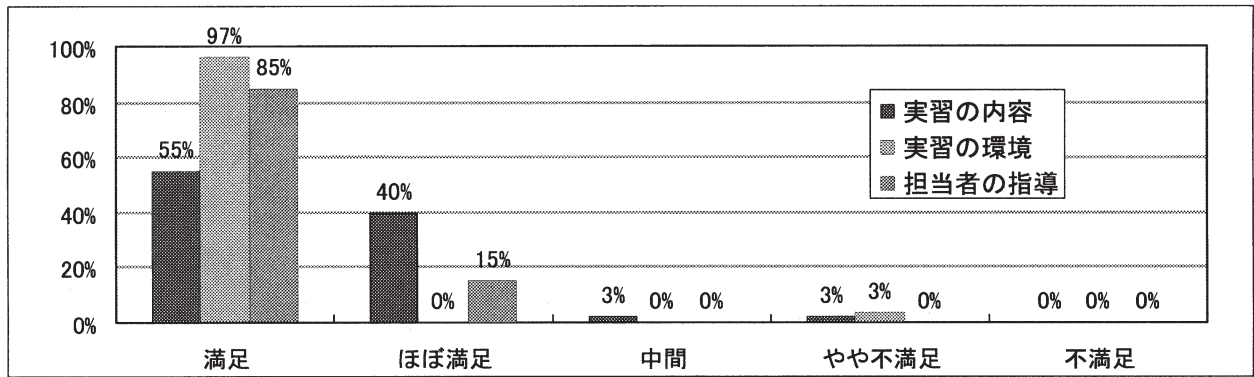


図 8 - 1 参加学生による実習内容、環境、指導内容への満足度

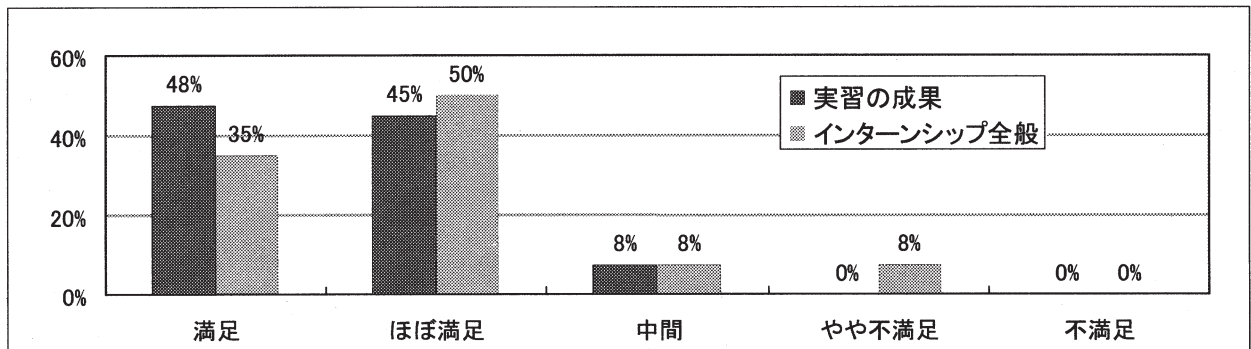


図 8 - 2 参加学生による実習の成果、インターンシップ全般への満足度

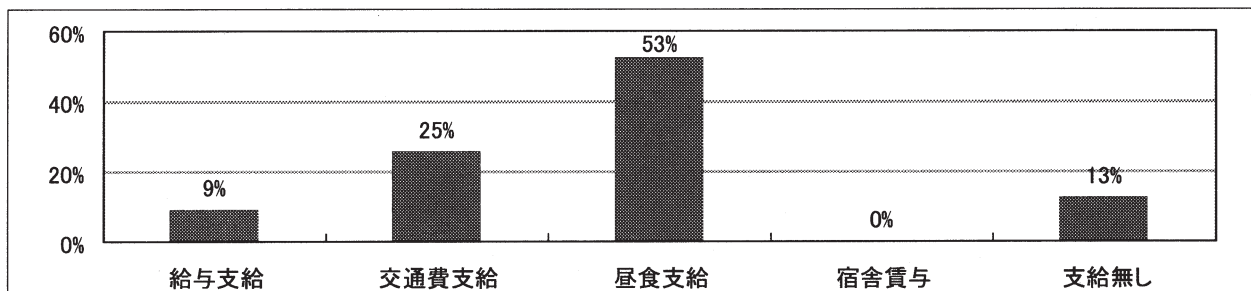


図 9 実習生に対する支給の状況

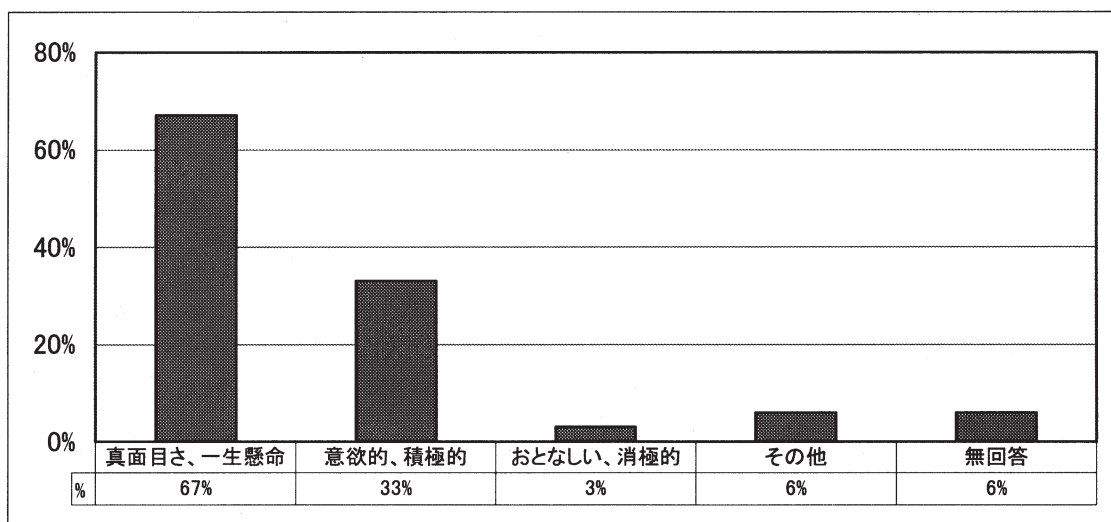


図 10 実習生に対する訪問教員の評価

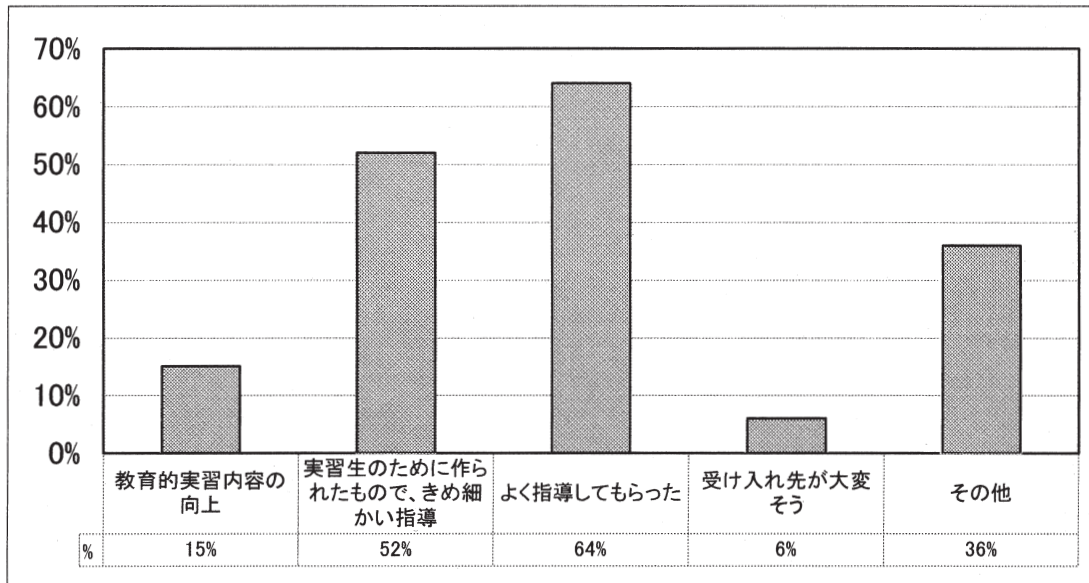


図 1 1 訪問教員の受入事業所への評価と要望

## 9. 平成18年度インターンシップのまとめ

### 9.1 事前研修の成果

今年度は、昨年度の成果を基に、インターンシップの効果を高めるために、昨年同様4回の事前研修を行った。82社の企業から163名の学生募集をいただいたにもかかわらず、第1回の事前研修には78名の学生しか参加しなかった。これは昨年度の47%に相当する数で、運営する側として当惑したのは事実である。少しでも学生数を増やし、78名からの減少を食い止めるために実施したのが、DVDによる事前研修の補講である。その結果、第1回事前研修からの減少率は、昨年度51%であったのに対し、今年度は47%とわずかながら改善することができた。

前述したように、結果的には実習を行った学生、企業のいずれもおおむね満足できるインターンシップであったことは明らかである。

### 9.2 いくつかの反省点と改善点のまとめ

今年度のいくつかの反省点も指摘される。

- 1) 初回の参加学生が78名と少なく、最終的な実習生は41名と昨年のほぼ半数であった。参加者数を増やす努力が必要であること。
- 2) 毎年のものであるが、募集や事前教育において相当な努力にも関わらず、「やってみたい仕事がない」などの一方的な理由から希望者があられないなど、全体として見た場合、学生の参加意欲が低い状況にあること。
- 3) 「真面目に実習をやり指示された業務はほぼ実行してはいるが、自分から質問することが少なく、自発性、積極性に欠ける」という指摘を受ける学生が少数ではあるが存在していること。

参加者数が激減した理由を考えると、まず、やらまいか教育科目群には、「創造発見」や「ボランティア」などの科目があり、これらとの競合で学生数が減ったことが考えられる。事実、これらの科目の履修者数も減少している。また、学内のクラブ活動として、ロボットコンテストやフォーミュラーカーや鳥人間コンテストなど多くのプロジェクトが動いており、積極的な学生の多くがこれらのプロジェクトに参加していることも、大きな原因のひとつであろう。インターンシップを含めた複数のプログラムに

参加している学生もいるのは事実であるが、非常に少数である。これは大きなプロジェクトに注ぐ労力が大きいため、「掛け持ち」ができなくなっているためであろう。さらに、昨年度から事前研修を2回から4回に増やしたことも、少なからず影響しているものと思われる。

いずれにせよ、学生にとってインターンシップは授業のひとつにすぎないのであり、キャリア教育の幹となるプログラムであるという認識は低いと言わざるを得ない。

今後の対策として、

- 1) 学内でインターンシップの意義や目的を再確認し、全学的に取り組む
- 2) 学生のインターンシップへの理解を高め、キャリア教育の柱とする
- 3) 受入企業等とインターンシップでの成果を共有できるよう、大学と受入企業等との間で実習内容に関する打ち合わせを可能な限り行う
- 4) 実習内容の充実のため企業等側のインターンシップへの理解を高めてもらう

これらの対策により、実習をより効果的なものとすることができるものと考えられる。

## 10. 8年間のインターンシップの総括と将来展望

### 10.1 8年間のインターンシップ実施状況の変化

本学では平成11年からインターンシップ実施を継続して8年目に至っている。本年度は事前教育を行うと共に、各年度同様に実施の際には、受入企業および参加学生の双方から詳細なアンケート調査を行ってインターンシップ実施上の問題点を調査すると共に、参加学生からは報告書を提出させ、企業の実習担当者からは学生の個別評価や所見の報告を受けて、各企業における実習内容および就業状況の把握に努めた。

### 10.2 インターンシップ実施8年間の総括

#### (1) 受入企業の募集

本学周辺の静岡県西部地区は、愛知県に連なって全国的にも有数の“もの作り”関連企業の集積地であり、実習の環境としては極めて恵まれている。本学のインターンシップの開始に当たっては本学周辺の多数の企業、商工会議所、自治体などからの積極的な支援が得られ、受入企業および

実習生の募集数は現在まで十分な数が確保されている。

### (2) 参加学生の募集

昨年度まで参加する学生数は、毎年少しずつ増加していたが、今年度は大きく減少した。本学ではインターンシップは“やらまいか教育”科目群のひとつであるが、この科目群には、魅力あるプログラムが数多く用意されている。このような科目との競合の中で、学生を集めることは容易なことではない。しかし、4節に述べたように最終的に実習生が派遣できない企業もまだ相当数ある。このような企業には失望を与えるのみならず、大学との関係にも影響が生ずる可能性もあり、考慮すべき問題である。

### (3) 就業体験によって学生が得た成果

7節で述べたように、学生が就業体験で得た成果は、技術的な面の習得や認識に関する事項、勤労観・職業観の育成に関する事項など非常に多岐にわたっており、インターンシップを経験した学生のうち大多数が人間的成長という点で大きな進展が見られる。このような“気づき”が今後の学生生活に生かされることは明白であり、この観点からインターンシップの目的を十分達成していると考えられる。

### (4) カリキュラム上での取扱い

本学のカリキュラム上では「インターンシップ」は2年生以上に対する選択科目で単位数は1単位である。学内におけるインターンシップの重要性の認識は高まってきてはいるが、就職あるいはキャリア教育という観点からの位置づけをさらに高める必要がある。2回目の参加者（インターンシップ2）にも更に1単位を付与する案あるいは1単位を2単位にする案などもあり、今後検討されることになる。さらには、必修科目化の案もでているが、「意欲や資質の点で問題がある学生が参加した場合、受入企業に迷惑をかける」という懸念もある。現実的な方法として、他の科目と組み合わせた複数科目の中でいずれかを必ず履修するという選択必修制の採用も検討中である。

### (5) 事前研修の効果

事前研修では、仕事をする上での考え方や心構え、社会人としてのマナーなどの認識を高めることに努力した。とりわけ積極的に学ぶ姿勢を持たなければインターンシップに参加する意味はないことを強調している。その結果、企業担当者から積極性を評価される学生も多くおり、事前研修を充実させた効果が出たものと考えている。

### (6) 受入企業の取り組み

8年前のインターンシップ開始当初に見られた受入企業の戸惑いの姿勢は少なくなり、将来の人材育成との高い意識もはじめている。さらに、しっかりしたインターンシップ用の教育プログラムを準備する企業も昨年より増えてきている。しかしながら、大学における教育活動の一環としてさらなる充実と努力をお願いしたい。

## 10.3 インターンシップの将来の展望

### (1) 企業との連携の強化

インターンシップの課題の一つは、プログラムの内容をより高い教育効果を持つものとするところである。そのためには大学と企業との連携をより強化し、大学における事前教育の充実と企業における実習プログラムの充実の双方を目標とする改善を行うことが必要である。企業との連携教育をより強化して行くために、「産学連携教育協議会」を設立して協議を進めている。

### (2) 学生の意欲の向上、学内での位置づけ

今後のインターンシップの発展のためにインターンシップに対する学生の意欲をより高めることが不可欠である。インターンシップ参加学生のための事前研修会を充実させたことは、学生の意欲を高め、十分な予備知識を与え

るなど、一定の成果を示したと考えられる。

今後は、就職のための実務教育、ビジネスマナー、資格取得などの一貫したキャリア教育の中に明確に位置づけられる必要があり、全学的なインターンシップに関する理解と協力が不可欠である。その中で就業意識の高揚をはかり、インターンシップに対する意欲や積極性の養成を行う必要がある。

### (3) 長期インターンシップへの発展

全国的に見てもインターンシップの導入は一段落しつつある。しかし、多くの大学のインターンシップは本学におけると同様に2週間程度の短期のインターンシップを主とするものである。短期のインターンシップは学生にとって参加しやすいという利点はあるが、実質的な就業体験という意味では得るものが十分ではなく、また企業側にとってもメリットが多いとは言えない。従って、次の目標は長期のインターンシップの導入に移りつつある。本学において、現状または近い将来に採用し得る方法としては、(a) 夏期または春期の休暇期間のどちらかまたは両方を利用する方法、(b) 通常のカリキュラムの中での空き時間を利用して半期(半年間)継続する方法、(c) 卒業研究の代わりに長期インターンシップを選択する方法などが考えられる。本学においても長期インターンシップの導入に関する検討が今後されていくことになる。

## 11. あとがき

平成18年度は参加学生が激減した中で実施され、その成果と問題点を整理するとともに、インターンシップの実施経過および結果について本報告書にまとめた。また、平成11年から平成18年に至る8年間のインターンシップの実施結果を総括して成果反省点、改善点などをまとめ、それに基づいて今後のインターンシップの発展の方向と当面の課題を示した。さらに、将来の展望等の考察を行った。

## 参考文献

- 1) 文部省編, インターンシップ・ガイドブック, インターンシップの円滑な導入と運用のために, 1998.
- 2) 丹羽昌平 他, インターンシップで学生は何を得たか?—平成14年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第11巻, 2003, 281-303.
- 3) 丹羽昌平 他, インターンシップ実施5年間のまとめとこれからの展望—平成15年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第12巻, 2004, 299-320.
- 4) 丹羽昌平 他, 平成16年度インターンシップ実施報告—インターンシップの教育効果の向上のために—, 静岡理工科大学紀要, 第13巻, 2005, 95-104.
- 5) 丹羽昌平 他, 地域社会との連携による実習体験教育, 工学教育, 第53巻第4号, 2005, 23-29.
- 6) 惣田晃夫 他, 平成17年度インターンシップ実施報告—事前教育の充実による教育効果の向上—, 静岡理工科大学紀要, 第14巻, 2006, 163-174.